

# 原始からの変遷垣間見る

6月15日まで 県立歴史館で企画展

県立歴史館(千曲市)で、企画展「原始〜開館30年のあゆみ展」が開かれている。1994年に開館した同館が県内各地から収集した所蔵品を



旧石器時代から古墳時代における県内の重要な歴史資料が数多く並ぶ企画展

中心に、旧石器〜古墳時代の石器や土器などの歴史資料計769点を展示。長野県の特徴を示す遺物とともに、89年の県史通史編第一巻「原始・古代」刊行後の研究成果も紹介している。6月15日まで。

同展では、上水内郡信濃町の野尻湖遺跡群で発見された旧石器時代の世界最古級の磨製石斧と砥石(国重要文化財)や富士見町の札沢遺跡で出土した縄文中期の「動物装飾付釣手土器(県宝)」のほか、弥生時代の赤い土器、古墳時代の日本最古級の木製馬具といった重要資料の数々が会場に並ぶ。各時代の土器や農工

具の形状、意匠、素材などから原始に生きた人々の生活、文化、産業の変遷と地域色を垣間見ることが出来る。

5月10日午後1時30分から、同館の水澤教子総合情報課長が「考古資料30年の歩み」と題して講演する。事前申し込み制(定員220人)で、常設展券(一般300円、大学生150円、高校生以下無料)の購入が必要。同日と6月14日は午後1時から担当職員によるギャラリートークも行う。

開館時間は午前9時〜午後5時(入館は同4時30分まで)。毎週月曜日(5月5日)を

除くと同7日は休館。企画展の観覧料は一般300円、大学生150円、高校生以下無料。問い合わせは同館(電話026・274・3991)へ。

(久保勇名)